

# 2023 年度事業報告書

特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所

## 1. 活動の成果

当法人の財政構造は、常に収益事業（主に行政からの委託事業）を軸にしているといえます。2023 年度の経常収益は約 1250 万円で、例年同様、そのほとんどは行政からの委託事業でした。

なかでも形状収益の 45%を占める「まち活拠点まちラボ事業」については、神戸市からの委託事業として、神戸市内外のまちづくりに関する人々が集い、まちづくりに関する情報が集積され、その豊富な情報やまちづくりのネットワークを元に、課題を解決したり興味を実践につなげたりしていく場となることを目指して運営を続けてきました。

4 年半の運営実績の中で、この目標はかなりの部分、実績をあげられたと感じています。

まちづくり拠点としては、前年度に引き続き「KOBE まち大」の開催や、「こうべあいウィーク」の開催（1 月 14 日～16 日）、元町商店街の活性化活動の支援、まち協アーカイブの更新等を行ってきました。広報活動としては、SNS の活用を進め、フォロワーを着実に増やしてきました。また、フリーペーパーを使ったワークショップの開催や、鳥瞰図絵師である青山大介氏の作品展への協力、オンラインイベント等、新たな大小のイベントによる集客をおこなってきています。

こうした活動を通じて利用者数は年間で約 3,700 人を数えるまでになっており、これまでで最も多くの利用者を得ることができました。図書の貸出については年間約 300 冊を数えています。これらはまだまだ伸ばせる数字であると考えており、会館の指定管理者となった令和 6 年度以降に向け、さらなる利用者増を目指したいと考えています。

研修事業では、長崎県の高校からの依頼により神戸市内での研修会に講師を派遣しました。また、兵庫県からの依頼により「防災ウォーク 備」の開催（1 月 6 日）を支援しました。これは日本ウォーキング協会と連携して開催したイベントで、当日の参加者は約 200 名を数えました。

講座・勉強会事業では、これも兵庫県からの委託により、震災カタリベ研修プログラムとして研修を開催しました。阪神・淡路大震災時に活動した皆さんが高齢化する中、震災の記憶を次世代へとつなぐ活動の一助となったと考えています。

また、神戸市の委託により地域団体・地域活動の人材を育成することを目的とした講座の企画・運営を行いました。北区有野台と兵庫区兵庫津を主なフィールドとして 25 名をこえる受講者を集めることができました。この事業では講座の組み立てを当法人会員有志で行い、実際の講座運営はそれぞれのチームが行うという体制をつくることができ、法人会員の知見を業務に活かす方法を確立することができたと考えています。

居住支援法人の支援事業は、神戸市居住支援協議会からの委託により、昨年度に引き続き、新規の居住支援法人へのヒアリング、居住支援法人の意見交換会を企画・運営しました。さらに兵庫県・神戸市合同の居住支援法人研修会の企画・運営により、より有効な居住支援活動の支援を実現できました。

アドバイザー派遣事業では、神戸市まちづくり専門家派遣によるまちづくり協議会へのアドバイザー派遣を行ったほか、消防局からの委託により、地域おたすけガイドの更新支援を長田区・中央区のそれぞれで行いました。おたすけガイドの更新にあたっては DIG（災害図上訓練）によるワークショップを開催し、DIG のノウハウの積み上げができたと考えています。

ひょうごまちづくりプラットフォーム事業では、これまでに引き続き、プラットフォーム淡路島への

支援を行っています。また、団地再生事業では、明舞団地の狩口台8団地を対象にマンションストック長寿命化に向けた取り組みの支援を通じて、団地内の1団地にまちづくり協議会の立ち上げるところまでたどり着くことができました。

法人の活動としては以上のように、一定の成果をあげたものと考えていますが、メインの事業であるまちラボ運営事業においても、事業別で見れば200万円近い赤字となっています。これは神戸市からの委託料が下がったことに原因はあるものの、費用として人件費のみでも赤字というのは問題があると言わざるをえません。収益をあげている事業もありますが、委託事業における赤字はできるだけ避ける必要があると考えます。法人を維持するだけでも一定の費用がかかるため、この収益構造を改善できなければ、法人の存続そのものが危ういと言わざるをえない状況です。

営利企業の行動原理は「利益をあげること」ですが、NPOの行動原理は「社会的ミッションの達成」だと考えます。そして、当法人のミッションとは、まちづくりや地域の活性化を目指す市民や市民活動のエンパワーメントであると要約できます。このミッションの達成に必要な政策提言などもミッションに含むと考えます。

私達は行政からの委託事業を収入の柱としていますから、「委託された事業の実現を通じて社会的ミッションを達成する」または「委託された事業を通じて得た資金をもとに社会的ミッションを達成する」のどちらかが法人経営の中心手法ということになります。平たくいえば、当法人のミッションの達成に合致する委託事業は予算の多寡によらず引き受け、そうでない委託事業は収益を得るために引き受けて稼ぐという構造となるものと思います。

この構造の根本的な弱点は、それがすべて「行政から委託を受けなければ始まらない」点にあり、社会的ミッションの達成といいながら、その達成の方向性については常に行政の意向次第であり、目標実現の方向性を主体的に決められないことにあります。この弱点を改善しつつ、財政構造を改善して収益の柱を立てるのが当面の課題と考えます。

## 2. 特定非営利活動に係る事業

### (1) 民間非営利組織、市民活動及びまちづくりに係る調査・研究・研修・政策提言

#### ■ 研修事業

##### ○研修受け入れ事業（自主事業／2023年4月1日～2024年3月31日）

市民活動やまちづくりに関わる人々との交流・体験プログラム等にて、各種団体の研修・視察を受け入れた。

##### ・長崎県立五島高等学校講師派遣（名鉄観光サービス株式会社長崎支店／2023年12月6日）

長崎県立五島高校の修学旅行生への研修会へ講師（正会員）を派遣しました。「都市部のまちづくりについて」という漠然とした依頼でしたが、都市計画の基礎と都市問題の変遷を交えながら、神戸のまちについて解説しました。別途、スライドを見せながら震災復興の話も盛り込みました。

##### ・令和5年度防災ウォーク備コーディネート業務（ひょうご安全の日推進県民会議補助事業／2023年12月26日～2025年4月30日）

1月6日に、一般社団法人日本ウォーキング協会と連携して「防災ウォーク 備」を実施した。当研究所の役割としては、コースの選定と各スポットでの語り部の手配と調整である。コースの選定については、スタート地点・みなのもり公園、横断歩道橋、十五番館、商船三井ビル、元町商店街、JR 駅その他の表示方法を提案した。当日は、天気も大変よく、200名の参加者数となった。

##### ○講座・勉強会事業（自主事業／2022年4月1日～2023年3月31日）

講座・勉強会・セミナー開催や開催支援業務の受託を行った。

##### ・地域の担い手育成講座運營業務（神戸市委託事業／2023年8月22日～2024年3月31日）

神戸市の地域協働局からの委託により、将来の地域団体及び地域活動の担い手となる人材の発掘・育成に向け、地域活動に参加するきっかけづくりを目的とした講座を行う目的で事業を行いました。

講座は2学期で構成し、1学期は北区有野台を、2学期は兵庫区兵庫津をフィールドとし、それぞれ正会員をメイン講師として講座を開講しました。



1学期 ①2023年11月5日 @まち活拠点まちラボ

② " 11月11日 @有野台会館 ゲスト講師：黒田光昭氏（有野台自治連合会長）

③ " 11月26日 @有野台商店街 「ありの台マルシェ」

④ " 12月2日 @まち活拠点まちラボ

2学期 ①2024年3月17日 @まち活拠点まちラボ

② " 3月9日 @JR 神戸線住吉駅周辺

③ " 3月16日 @兵庫区役所会議室 ゲスト講師：岩佐光一郎氏（中道ふれまち）

④ " 3月30日 @兵庫津周辺（午前）＋兵庫津ミュージアム（午後）

第1学期は広報期間が短かったこともあり、受講者は4名でしたが、第2学期は22名を集めることができました。参加者は年齢層・性別について比較的幅広く集めることができ、それぞれの立場から、まちづくりとは何か、まちづくり・地域づくりへの関わり方などについて学んでいただくことができました。

- ・令和5年度語り部ガイド育成研修業務（ひょうご安全の日推進県民会議委託事業／2023年12月26日～2024年3月31日）

3月10日に、“震災カタリベ研修プログラム「1.17BATON」”を開催した。17～75歳といった年代もバラバラの14名の参加者（申込者数は17名）で実施した。山地久美子さんの座学、佐藤由美子さんの炊き出し体験、野村防災研究所の野村勝さんの語り部の講話、語り部体験まちあるきを行った。



## （2）民間非営利組織、市民活動及びまちづくりの支援事業

### ■まち活拠点まちラボ事業

- 令和5年度こうべまちづくり会館（まち活拠点まちラボ）運營業務委託（神戸市委託事業／2023年4月1日～2024年3月31日）

地域や社会の課題がますます複雑化する中で、コミュニティの存続や地域課題の解決を担う人材の育成が急務となっている。一方、4人に1人は、ボランティア活動を経験していることや、何か社会の役に立ちたいと考えている人が6割を超えるなど、地域や社会に貢献したいと考えている人は多く、また世代・属性は多岐に渡っている。

この状況下において、神戸市では令和元年10月に神戸元町商店街にある、こうべまちづくり会館に“まち活拠点”を開設。まち活拠点は、まちづくりに関心のある人材が集い、まちづくりに関する情報が集積され、その豊富な情報やまちづくりのネットワークを元に、課題を解決したり興味を実践へと繋げたりしていく場となることを目指す。そしてこの好循環を常に維持できるよう、まち活拠点の管理・企画運営などを委託するものである。

### <新型コロナウイルス感染拡大防止対策>

- ・緊急事態措置実施期間／まん延防止等重点措置実施期間：なし
- ・スタッフの感染確認による臨時休業：なし
- ・その他：大声を伴う利用は定員50%及び来館者へのマスク着用呼びかけ 3月13日以降は解除

### <施設整備の考え方>

- ・まちラボの基本機能である「誰でも無料でつかえるフリースペース」ということを中心に整備。
- ・使い方も「動的」「静的」などエリアごとに制限をかけ、利用者の快適性に配慮する。
- ・利用者の方から誤解を生まないように、静寂を強制する場所ではないことをアピール。

### <施設の運営について>

#### ①運営時間

- ・水曜日以外の9:30～18:00

#### ②こうべまちづくり会館全体の連携

- ・毎月第3木曜日に会館全体の定例会に参加。情報共有など。
- ・ギャラリー利用をしていた神港学園鉄道研究会さんがまちラボ開催へ誘致。逆に公社主催イベントのパンフレットをまちラボに配架するなど、相互で協力体制をとった。
- ・会館入り口にて、まちラボ主催のイベント「Saturday P.M. Fever」も不定期で開催。路面に接した場所にて、活動拠点としてのまちラボが出張。商店街や学生との他、会館1階古書店とも連携した。



↑ Saturday P.M. Feverの様子

### ③イベントなど

まちづくりについて知りたい人に向けて基礎的なセミナーとして、小林郁雄氏とゲストによる対談イベント「KOBE まち大」を今年も開催。自主企画として、只本屋浜田店さんの協力で「フリーペーパーでまち探り!」、三谷氏を招いてご当地お土産について語る「収集喫茶」、駅名研究会の会員である青木氏と「朝から生交通」のオンラインイベントや、地下ギャラリーで開催された神戸の鳥瞰図絵師「青山大介作品展」のイベント協力を行なった。また、一昨年度に続き昨年度も1月14日～16日にかけて「こうべあいウィーク」を開催。能登地震の直後ということもあり、復興バルを中心に有意義な場を生み出すこととなった。

地域連携としては、スタッフ今地による元町商店街を中心に元町夜市出店など商店街開催のイベントへの協力や、元町映画館とのコラボイベントの開催も目立った。

#### <施設利用に対する支援（日常の支援）>

新型コロナウイルス感染拡大は落ち着いたが、防止対策について引き続き継続案内した。2023年4月～2024年3月の利用者数は3,690名（昨年度は3,346名）であった。来館の際に記入していただく来館者カードの自動入力機能を備えた「改札機」を2023年7月に導入。システム開発には今地の団体「考える人」が携わった。導入直後、この改札機は神戸新聞にも記事として掲載された。



↑ 導入された「自動改札」

以下、その他の2022年4月～2023年3月の値を記す。図書の利用状況は、貸出が170件300冊、新規登録者数が49件、いずれも昨年と比べて増加した数値を示している。カフェの利用は、828（バリスタ408、アップル211、マスコット88、メロンソーダ23、アップルサイダー80）であった。昨年より販売開始したアップルサイダーの数少ない取扱場所として、わざわざ飲みに来館される方も散見された。夜間貸室対応件数は、120件であった。

#### <施設利用に対する支援（まちづくり拠点機能）>

持込企画のイベントとして、「KOBE まち大」を年4回開催、その他に中尾氏の持ち込み企画「再発見・神戸中心市街地」など、オンライン設営も含めた施設利用の支援を行った。

##### ・まちでの実践に取り組む場

まちで活動を実践したい、実践している層をターゲットとし、実践が各地域の活性化に繋がるよう支援を昨年度に引き続き行った。元町商店街の活性化を目指して活動する「考える人」の支援をはじめ、まちラボで誕生した「全国駅名研究会神戸市部」の参加者が主催する市電関連イベントへの支援の他、教育実践チーム、CG作家チームによる勉強会など小規模な集まりも定期的に開催されている。

また神港学園鉄道研究会のイベント会場として、定期的にまちラボを提供。あえてターゲットを鉄道に詳しくないファミリー層に設定し、校外活動および多世代交流の一環として機能した。

##### ・横のつながりを生み出す場

2023年8月26日に、古川が神戸生活想像センターに出張イベント「駅名妄想会議」を開催。以前、まちラボで開催したイベントを知人が運営するスペースですること、他地域でのまちラボの周知に繋がった。

##### ・情報が集積される場

一昨年度より神戸住環境整備公社の協力で「まち協アーカイブ」展示を開始していたが、昨年度の最新号まで追加。また「只本屋浜田店」による、まちに関わるフリーペーパーコーナーも継続。

## <施設利用に対する支援（広報）>

まちラボ及びシェアオフィス機能の利用促進を図る広報として、会館内や元町商店街、神戸市各地でのパンフレットの配布。SNSでは、facebook（フォロワー1,175人）、Twitter（フォロワー279人）、Instagram（フォロワー441人）にてリアルタイムでの情報提供を行った。動画配信としては、イベントアーカイブをYouTube（事業の報告や呼びかけ）で公開している。

また、PR用の年度毎の事業報告書として発行していた事業レポート「まちラボ style」一部を復刻したものを引き続き配架した。また、イベント案内や新着図書の紹介を手書きで仕上げた「まちラボ新聞」も不定期ではあるが今年度も発行した。

## ○こうべまちづくり会館夜間貸館対応業務（一般財団法人神戸住環境整備公社委託事業／2023年4月1日～2024年3月31日）

こうべまちづくり会館の夜間貸館業務のうち、使用料の徴収・返還を除く次の業務を受託した。

### <具体的な作業内容>

- ・18:00以降の入館者対応：西側通用口の解錠（セキュリティ保護のため来館時に随時）
- ・貸室利用者からの問い合わせ対応や必要な場合、まちラボの備品の貸出にも対応する。
- ・利用終了後、照明、空調、施錠状態の確認を行う。
- ・5階事務所に利用台帳と備品の返却、エレベーターが貸室階に止まらないように設定する。
- ・退館時に全館のセキュリティをセットする。

※2023年4月から2024年3月までの対応実績：118件

## ■被災地支援事業

### ○復興まちづくり支援事業（自主事業／2023年4月1日～2024年3月31日）

これまで行政からの委託事業や補助事業で支援してきた地区や自主事業として支援してきた地区を可能な範囲で継続して支援した。

- ・4月8～10日（土～月） 宮城県気仙沼市只越地区

防災集団移転事業の記録誌作成のため気仙沼市只越地区を理事長が訪問。住民との意見交換会を開催。

- ・8月20～21日（日～月） 宮城県気仙沼市只越地区

防災集団移転事業の記録誌作成のため気仙沼市只越地区を理事長が訪問。住民との意見交換会を開催。

- ・11月2～3日（木～金） 宮城県気仙沼市只越地区

防災集団移転事業の記録誌作成のため気仙沼市只越地区を理事長と事務局長、会員1名が訪問し、住民との意見交換会を開催。

- ・2月23～24日（金～土） 宮城県気仙沼市只越地区

防災集団移転事業の記録誌作成のため気仙沼市只越地区を理事長が訪問。住民との意見交換会を開催。

- ・3月23～25日（土～月） 石川県能登半島

理事長の第2次能登半島被災地訪問に、会員1名が同行し記録作成等を行った。

## ■居住支援法人支援事業

### ○令和5年度居住支援法人の運営支援業務（一般財団法人神戸住環境整備公社委託事業／2023年5月23日～2023年12月28日）

5年目となる2023年度は、新規の居住支援法人へのヒアリングの他、テーマ別勉強会の開催、兵庫

県・神戸市合同の研修会の開催を行った。

#### <居住支援法人へのヒアリング（令和5年6月27日～令和5年12月28日）>

ヒアリングに先立ち、第1期は、神戸市域を対象としている兵庫県内対象の居住支援法人6団体に、第2期は3団体に、それぞれヒアリングシートを送付して記入をしてもらい、記入内容を元にヒアリングを行った。ヒアリング内容は、支援対象者や対象エリア、相談窓口などの基本情報の確認と、うまくいった事例、いかなかった事例や課題、困っていること、居住支援協議会に期待することなど。ヒアリングは訪問にて行い、居住支援協議会のメンバーもヒアリングに同席した。

ヒアリング結果を基に、居住支援法人9団体のヒアリング内容をまとめた。

#### <意見交換会の企画・開催>

- ・日時会場：令和5年7月18日（火） 13:30～16:30 三宮研修センター
- ・テーマ：障害者の居住支援に関する勉強会
- ・参加者数：参加者72人、スタッフ20人

生活保護制度、成年後見制度、日常生活自立支援事業、それぞれの立場から見る障害者の居住支援についてレクチャーをいただいた。レクチャー後は、ファシリテーターの進行のもと、10班に分かれて、「精神疾患を持つ方の居住支援について」をテーマに、「事例」から「課題」を出し「ディスカッション」を行なった。

#### <兵庫県・神戸市合同の研修会の企画・開催>

- ・日時会場：令和4年11月14日（月） 13:30～16:30 三宮研修センター
- ・参加者数：居住支援法人23人（うちオンライン6人）＋行政等8人（うちオンライン4人）、エントリートーク7人、スタッフ21人

刑余者の居住支援について、入口支援、出口支援など、それぞれの立場からの支援について関係者から話を聞き、その後、刑余者の居住支援についてワールドカフェ方式でディスカッションをしテーブルごとに発表を行なった。



### ■アドバイザー派遣事業

#### ○神戸市まちづくり専門家派遣によるアドバイザー派遣（2023年4月1日～2024年3月31日）

- ・神戸市まちづくり専門家派遣によるアドバイザー派遣（会下山地区）

神戸市地域団体（会下山地区まちづくり協議会）より派遣依頼があり、会議の開催等にあわせて派遣し専門的なアドバイスを行った。会議等7回実施。

#### ○令和5年度地域おたすけガイド更新等支援業務（神戸市委託事業／2023年5月25日～2024年3月31日）

神戸市には、各小学校区ごとの地域防災組織として「防災福祉コミュニティ」が市全体で192団体が組織されている。神戸市消防局では10年ほど前から、災害時の地域初動マニュアルとして「地域おたすけガイド」の作成を支援してきた。令和4年度に192組織の全てにおいて「地域おたすけガイド」の作成が終わったことから、令和5年度からは各地域のおたすけガイドの見直しに取り掛かっている。

本年度は神戸市消防局からの委託により、長田区（二葉地区）・中央区（籠池地区）においてDIG（災害対応図上訓練）を活用しながらおたすけガイドの更新を行う事業を行った。



長田地区では 2023 年 9 月 10 日に、ふたば学舎 3 階会議室において、二葉地区防災福祉コミュニティの役員と災害図上訓練を行った。この訓練は、長田区内の防災リーダー研究を兼ねており、長田区内の多くの防災福祉コミュニティからも多くの人達がギャラリーとして参加した。

中央区では 2024 年 2 月 10 日に籠池地域福祉センターにおいて、籠池地区ふれあいのまちづくり協議会役員等と災害図上訓練を行った。

それぞれの成果は、両地区とも「おたすけガイド（改訂版）」としてまとめ、地域で活用できる形としたほか、地域で活用する防災マップを作成した。

## ■相談事業

通常業務としての相談は受けているが、収益事業としては実施せず。

## ■HMP 事業（ひょうごまちづくりプラットフォーム事業）

### ○淡路地域の地域づくり・ネットワーク推進事業（プラットフォーム淡路島実施事業への協力）

HMP 事業の一環で設立した団体で、理事長他会員 3 名がアドバイザーとして協力している他、メンバーリングリストの運用保守などの支援を継続している。

- ・企画運営・編集会議（5 月 24 日、7 月 11 日、8 月 22 日、9 月 25 日）
- ・10 月 23 日（金） プラットフォーム淡路島「閉めの会」
- ・編集会議（11 月 17 日、3 月 18 日）

## （3）まちづくり及び地域再生のために必要な事業

### ■団地再生事業

### ○マンションストック長寿命化等モデル事業推進業務（狩口台 8 団地管理組合法人委託事業／2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

2021 年度～2023 年度、狩口台 8 団地を対象としたマンションストック長寿命化等モデル事業に取り組んだ。その結果、隣接する 5 つの団地が一団地認定されていることが判明。2023 年 4 月 30 日に 5 つの団地管理組合の有志で合同会合を開き、今後の進め方について意見交換を行った。7 月 9 日の 8 団地における事業報告会では各団地から参加があり、グループワークの時間を設け団地同士の意見交換を促した。月 1 回程度の会合を重ねる中で、団地同士の情報交換や将来を見据えた狩口台全体での話し合いの場が必要であるという機運が高まった。その結果、団地の将来像検討を目的に狩口台 5 団地でまちづくり協議会を立ち上げる方向性となった。今後は各管理組合の総会で諮り、正式に立ち上げへと進む予定である。

- ・会合（4 月 30 日、8 月 23 日、9 月 23 日、10 月 28 日、11 月 23 日、1 月 21 日、3 月 31 日）
- ・マンションストック長寿命化等モデル事業報告会（7 月 9 日）





#### (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

##### ■ニュース等の発行

発行せず。

##### ■法人中長期計画の策定

まちづくり会館の指定管理業務等への対応を中心に、理事会等の機会では今後の法人としての運営の在り方を議論した。新年度から役員や事務局体制を見直すなど、今後に向けた体制の整備に努めた。

##### ■こうべまちづくり会館での 1.17 関連企画「こうべあいウィーク」の開催

まちラボを活用し、こうべまちづくり会館と連携しつつ、防災・復興まちづくりに関する展示・セミナー・フォーラムとして「こうべあいウィーク」を開催した。

- ・1月14日(日) KOBE まち大/阪神大震災からの神戸 復興は何が良かったか?悪かったか?  
防災脱出ゲーム/防災グッズや知識を駆使して会議室から脱出しよう!
- ・1月15日(月) 神戸震災の痕跡を尋ねて/数々の災害を乗り越えた建築・遺構・祈念碑の紹介  
模型づくりワークショップ/元町商店街店舗の模型を作った  
関東大震災記念公演/「石版画からみる関東大震災火災」について語った  
震災とオリックス/震災の年に優勝したオリックスの当時の熱狂を語り合った
- ・1月16日(火) 今こそ神戸から伝えられること/災害対策や水害対策例についての講演  
昭和の元町商店街を歩こう/3DCG 作家の竹田真氏からの昭和の元町商店秘話
- ・1月14~15日(日~月) ふっこうバル/多くの災害と関わった人たちとの討論セッション  
スナック復興/被災地の酒と肴を楽しみながら、復興などを語りあった
- ・1月15~16日(月~火) 震災資料館/絵本から映像資料まで幅広い震災資料の展示
- ・1月14~16日(日~火) 非常食 de お弁当/いざという時に食べるものを試した  
海辺の写真展/神戸大学持続的災害支援プロジェクト Konti の写真展
- ・1月11~16日(木~火) 神戸三災展示/神戸の水害・戦災・震災が分かる地図等の展示

##### ■団体・実行委員会・ネットワーク等に参加

- ・ひょうご市民活動協議会 (HYOGON) (正会員/運営委員:野崎隆一)
- ・近畿災害対策まちづくり支援機構 (正会員/代表委員:野崎隆一)
- ・こうべ団地みらい創生機構 (正会員/代表理事:野崎隆一)
- ・災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議 (構成団体/委員:浅見雅之)
- ・明舞再生塾 (構成団体/担当:野崎隆一)
- ・こうべあいウォーク 2024 実行委員会 (構成団体/実行委員長:野崎隆一)
- ・ひょうご中間支援団体ネットワーク (登録団体/担当:浅見雅之)
- ・ひょうごふるさとづくり交流会議 (登録団体/担当:浅見雅之)
- ・ESD 推進ネットひょうご神戸 (RCE Hyogo-Kobe) (代表:野崎隆一)
- ・ひょうごボランティアプラザ運営協議会 (委員:野崎隆一)
- ・しみん基金 KOBE (理事:野崎隆一) など

### 3. その他の事業

#### (1) 民間非営利組織、市民活動及びまちづくりに係る商品や書籍の開発・出版及び販売

実施せず。

### 4. 事業実施体制

#### (1) 会議に関する事項

##### ■通常総会

開催日 2023年5月26日(金) 19時2分～20時15分  
開催場所 まち活拠点まちラボ  
出席者 24名(うち書面表決8名) ※正会員数33名  
議事内容 第1号議案「2022年度事業報告および2022年度決算報告承認の件」  
第2号議案「2023年度役員交代承認の件」  
第3号議案「2023年度事業計画および2023年度活動予算承認の件」  
第4号議案「定款改正承認の件」

##### ■理事会 隔月(奇数月)開催する。

4月臨時理事会 2023年4月21日(金) 9時～10時50分  
会場 Zoom ミーティング  
出席 理事6名/7名中(他2名)  
議事 活動報告、2022年度事業報告案、2022年度決算報告案、中長期ビジョン、2023年度役員交代案、2023年度事業計画案、2023年度予算案、その他

5月理事会 2023年5月12日(金) 9時～10時50分  
会場 Zoom ミーティング  
出席 理事5名/7名中(他2名)  
議事 活動報告、2022年度事業報告案、2022年度決算報告案、2023年度役員交代案、2023年度事業計画書案、2023年度予算案、定款改正案、通常総会案内・出欠連絡票・委任状、中長期ビジョン、通常総会運営

7月理事会 2023年7月21日(金) 9時10分～11時  
会場 Zoom ミーティング  
出席 理事7名/7名中(他2名)  
議事 活動報告、決算報告、新規受託事業承認(地域おたすけガイド更新等支援業務)、新規事業検討(地域の担い手育成講座運営業務、こうべまちづくり会館指定管理公募)、法人中長期計画の策定について、ニュース等の発行について、

9月理事会 2023年9月15日(金) 9時5分～11時5分  
会場 Zoom ミーティング  
出席 理事4名/7名中(他2名)  
議事 活動報告、決算報告、新規受託事業承認(地域の担い手育成講座運営業務)、新規事業検討(こうべまちづくり会館指定管理)、法人中長期ビジョンの検討、ニュースの発行、兵庫県からの防災ツーリズムに関する依頼

- 11月理事会 2023年11月17日(金)9時10分～11時10分  
会場 Zoom ミーティング  
出席 理事7名/7名中(他3名)  
議事 活動報告、決算報告、経理関係(消費税一般課税、修正予算)、居住支援法人支援事業、こうべあいウォーク2024、こうべあいウィーク、新規事業検討(集会所利活用調査)、次年度事業(こうべまちづくり会館指定管理)
- 1月理事会 2024年1月19日(金)9時～10時10分  
会場 Zoom ミーティング  
出席 理事5名/7名中(他2名)  
議事 活動報告、決算報告、新規事業承認(震災語り部育成研修会「Baton」、防災ウォーク)、まち活拠点まちラボ事業、団地再生事業、こうべあいウォーク2024、こうべあいウィーク、被災地支援事業、事務局長の体調不良に関連して、次年度事業(こうべまちづくり会館指定管理)
- 3月理事会 2024年3月15日(月)9時15～11時5分  
会場 Zoom ミーティング  
出席 理事7名/7名中(他2名)  
議事 活動報告、決算報告、実施事業、通常総会に向けて、今後の予定、被災地支援(能登半島)、30周年に向けて、役員体制

## (2) 事務局体制

■事務局長：浅見雅之

事務局スタッフ：川村憲之(短時間勤務職員)

まちラボ事業担当常勤正職員：上野建太、今地春乃(短時間勤務職員)、戸川由子(2024年3月より)

## (3) 会 員 (2024年3月31日現在)

①正会員 [個人] 33名